

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	くも膜下出血の転帰に関するデータベース研究
研究責任者	第二脳神経外科 部長 入江 是明
研究機関名	日本赤十字社医療センター
研究目的と意義	<p><b>【背景】</b>我が国では、脳ドック検診やMRIの普及で、未破裂脳動脈瘤の発見される割合が高く、欧米に比し約3倍破裂しやすいとされます。くも膜下出血(SAH)の治療法は開頭クリッピング術と、コイル塞栓術があり、従来開頭クリッピング術が多かったのですが、日本は世界一高齢化しており、コイル塞栓術も増えています。我々は日本のくも膜下出血の成績について報告してきましたが、虚血性脳卒中の成績の向上に比較してSAHの成績の改善は少ないとの報告もあります。SAHは破裂脳動脈瘤の再破裂予防治療に加えて、その後の遅発性脳虚血に対応する必要がありますが、その予防、治療ともに十分とは言えませんが、そこで今回我々は、日本のSAHのデータベースを構築し、SAHの転帰に影響する因子について研究します。</p> <p><b>【研究目的】</b>くも膜下出血後遅発性脳虚血の原因には、脳血管攣縮だけでなく、微小脳循環障害、微小血栓、一次脳損傷、cortical spreading depolarizationなどがあることがわかっていますが、その予防方法、治療方法は十分とは言えません。そこで我々は、日本のくも膜下出血の治療のデータベースを構築し、くも膜下出血後遅発性脳虚血の予防、治療、転帰に影響を与える因子について検討し、これらを明らかにすることを目的とします。</p>
研究方法	<p><b>【対象】</b>2016年4月1日～2021年12月31日までに当センターでくも膜下出血の診断で入院治療を行った全ての患者データ。入院時CT、MRI、髄液検査でくも膜下出血と診断し、CTA,MRA,DSAの画像診断で脳動脈瘤を確認した症例。</p> <p><b>【方法】</b>研究の種類・デザイン:後ろ向き研究(生体試料を用いない探索的研究) 破裂脳動脈瘤の大きさ、部位、性状などの動脈瘤情報、患者の年齢、性、既往歴、併存薬物などの患者情報、治療法・脳血管攣縮・遅発性脳虚血・水頭症・転帰の関連因子を統計学的に検討します。</p> <p><b>【利用している診療情報の項目】</b>入院時年齢、性別、SAH発症日、入院日、動脈瘤破裂部位、動脈瘤性状、動脈瘤サイズ分類、治療内容、遅発性脳虚血の有無、その予防法と治療法、脳血管攣縮の有無、その予防法と治療法、水頭症、入院時CT、Fisher分類、Hunt &amp; Kosnic入院時グレード、WFNS入院時グレード、退院時mRS、既往症等</p> <p><b>【個人情報の保護】</b>研究実施に係る試料等を取扱う際は、被験者の個人情報とは無関係の番号を付して、対応表を作成し匿名化を行い被験者の秘密保護に十分配慮します。対応表は研究責任者が管理します。研究の結果を公表する際は、被験者を特定できる情報を含まないようにします。また、研究の目的以外に、研究で得られた被験者の試料等を使用しません。</p> <p><b>【研究結果の公表】</b>研究の成果は、学会や論文に公表されます。研究に同意されない場合は下記までご連絡ください。ただし、すでに解析を終了している場合には、研究データから情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。研究に同意されない場合であっても、不利益を被ることはありません。</p>
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター 〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22 担当者：第2脳神経外科部長 入江 是明 TEL：03-3400-1311 FAX：03-3409-1604</p>